
神山 備の取扱説明書

神山 備

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神山 備の取扱説明書

【Nコード】

N9245X

【作者名】

神山 備

【あらすじ】

某所で綴っていた「こうやまたすくの作り方」を含めて、つらつらと私自身の執筆その他のアホなまでの拘りだとかを書いていきます。

現在、移行中でサイトと、もう一箇所掲載されております。そのうち、オリジナルも登場する予定です。

たすくの脳内はいつもアフレコ状態

皆さんがどんな書き方をされているのかは分かりませんが、私の場合はまずキャラクターを設定します。

年齢・体格・容姿・環境…それらのものを設定したら、舞台を用意し、キャラクターをそこに放置します。

そしてその“役者”が動くのを実況するという手法で書いているんです。

この際に重要なのはキャラの声。

アニオタたすくの頭の中にはとんでもない数の声優様の声がインプットされており、そのときのキャラに応じてそのキャラの声として聞こえてくるんです。

ちなみに「切り取られた青空」の板倉加奈子は川澄綾子さん（のだめカンタービレの野田恵）綿貫亮平は小西克幸さん（スキップビートの敦賀蓮）とかいう具合に…ブログの方では「青空」の全出演者の声を書いて失笑を買いました。

実は、これを某所で書いたときにはこれ以上のお名前を出さなかったんですが、後日書いていた全作品の主要キャラを大公開。

それがコレです。

完全に一部の人にしかウケないネタだと思えますが……

全て敬称を省かせていただきました。予めお詫び申し上げます。

まず、「切り取られた青空」(いと含む)から……
これはすべてのキャラに声優さんが付いているので、全部出せます。

板倉加奈子・川澄綾子

板倉修司・森久保祥太郎

板倉陸・川上とも子

板倉瞳・折笠富美子

綿貫亮平・小西克幸

設楽香織・皆口裕子

設楽詩織・篠原恵美

Tomさん・鳥海浩輔

うららさん・皆川純子

(堀木)俊樹・三木眞一郎

「遠い旋律」

三輪さくら・久川綾

坪内高広・山口勝平

松野芳治・小西克幸

(野江恵実・リア友)

「満月に焦がれて」

木村洋介・置鮎龍太郎

木村小百合・

桜木弘毅・関俊彦

桜木圭子・冬馬由美

木村乃笑留・井上麻里奈

桜木周人・中村悠一

「パラレル」

倉本（飯塚）夏海・チエ・ジウ

結城龍太郎・保志総一郎

武田康文・佐々木望

（中谷小夜子・リア友）

飯塚雅彦・石塚英彦

結城志穂・中原麻衣

「ハムケくオジツ ハムケ イツソ」

配役なし

「my precious」「precious dream」)

「パラレル」のメンバーは割愛)

梁原健史・小野大輔

結城総一郎・堀内賢雄

妙子・（声は確かに聞こえてるんですが、どなたかお名前分ならず）

「Future」（これも前作のメンバーは割愛）

飯塚未来・渡辺美佐

飯塚明日香・ペ・ドウナ

結城秀一郎・各父親と同じ声で

ジエラール・大塚明夫

「赤い涙」

根本昴・田中真弓

笹川樹・日高のり子

笹川京介・寺田農

安田一成・神奈延年

「交響楽」「ボクのプレシヤスブルー」（「遠い旋律」メンバーは

割愛)

笹本(坪内)久美子・三石琴乃

笹本智也・櫻井孝宏

笹本純輝・山口勝平

松野治人・小林由美子

松野楓・釘宮理恵

「バニシング・ポイント」

寺内衛・安元洋貴

名村博美・根谷美智子

名村順子・大原さやか

曳津信輔・遊佐浩二

北村冴子・キョン・ミリ

「道の先には……」

宮本美久・宮田幸季

鮎川幸太郎・置鮎龍太郎

マシュー・カール・杉田智和

(エリーサ・C・L・ガツシュタルト)・水樹奈々

谷山薫・森永理加

皆様のイメージを崩す配役だったらごめんなさい。しかし、書きながら自分で呆けるほど、すごい人数の声優さんが出てきて自分で笑ってしまいました。

この一年で劇的に変わったこと - 執筆スタイル

私の書き方がここ一年前からがらっと変わりました。

それは、ダイレクトアタックを止めたこと。

一年前に「ポメラ」を買うまでの私は、ダイレクトアタック・ブログやポータルサイトに直接入力していました。

なぜかと言うと、長時間筆記用具を持ちたくないからです。たすくは左利きを子供の頃に矯正され、右手で筆記用具を持ちます。でも、んな右手はすぐに疲れて攣ってくるんです。

ただ、パソコンのキーボードも、右を多用するようにできていると言えばそうなんですが、疲労度は手書きの比ではありません。

一応、不特定多数の方に見ただくのだし……ワードで下原なんてことも考えましたが、結局Webで載せるときに絶対に変わるの
で、結局一緒じゃないかと思ってたんです。

最近はこちらが初稿（サイトは同時進行です）というものも増えましたが、大体は別ポータルからの移行トランス

たかが、ブログ（当時）やポータルからここに移動させるだけの作業なのに、原稿が伸びる伸びる……まるでトルコアイスのごとくに伸びるんです。

（コピペを使えばいいのに、パソコン頭の私は、それを習得するのにかなり時間を食ってしまいました）

ただ、それをする、結局一から打つので誤植が山と積まれることになったりします。

某所では、ある作品に「折角素晴らしいのに勿体ないから」と、あまたの誤植を一覧表でいただきました。

現在はポメラで執筆。これは、パソほどかさばらないので、電車で実家を往復するときにと買いました。最近では、仕事の休憩時間にも打っていますが。こちらにはマイクロSDカードでコピペしています。その際に、誤植と文字と表現ブレをチェックしつつUPします。

ただ、サブタイトルはこの場でつけます。理由はポメラちゃんが入力順にかかわらず、五十音順でソートして記事を並べてしまうからです。タイトル+サブタイトルでも良いんですが、長いタイトルだと字数オーバーになりそうで、タイトル+通し番号で入れているんです。

そのサブタイをつけ忘れて、投稿ボタンを押すこと数知れず……原稿は全部消えちゃいますよね。一応またポメラちゃんから呼び出せば済むことなんです、修正箇所が多いときにわりとやっちゃんです。

「ああ、またこんだけ手直しせにや……」
と思うと正直凹んでしまいます。

それでも、誤植は続くよどこまでも……っていう、粗忽者なんです、ポメラ後の作品をそろそろ見直したいなあとは思ってはいるのですが。

それをする、また、トルコアイス捏ねちゃうかなあと思う、今日この頃です。

サブーイタイトルもあつたりしますが……

皆さん、連載作品にサブタイトルはおつけでしょうか。

再開第一作、「切り取られた青空」をブログで書いていた時、ご丁寧にも全部一話ずつサブタイトルを頑張つてつけたんですよ。全31話全て……

そしたら、面倒臭くなつて、「切り取られた青空 - いと -」「遠い旋律」「満月に焦がれて」は最初サブタイなしで書いていました。

しかし、ポータルにトランスするとき、字数制限が厳しいかつたり、ここはサブタイトルがないと入力できませんし。で、「遠い旋律」は数字を入れてみたくです。でも、数字は味気ないなど。

そついうわけで、「いと」からはトランスしがたらサブタイトルを冠し、「満月に焦がれて」「遠い旋律」も後日サブタイトルを付けました。

「パラレル」では長い話なんで、対タイトルなんてものまで作つて遊んでしまいました。

例えば、

「R」からの解放 「R」への回帰・同じではない未来 同じではなかった未来・愛してる？ それでも…愛してる等。

でも、このサブタイトルが曲者で、ネタバレしないように、でも内容を醸し出す様について考えると名前以上に難しい。

「交響楽」「赤ちゃんパニック」など、最初サブタイトルが中々決

まらず、とりあえず数字で揚げたものもありましたが、「赤ちゃんパニック」の時にびっくり、サブタイが決まるまで鳴かず飛ばずだったアクセス数が、（それでも人気の方にすれば微々たる量ですけど）倍加したんです。

数字だけのタイトルですごいアクセス数を稼いでらっしゃる方もたくさんおいですが、凡人はやれることをやるときましようと言うことで、今日もサブタイに命を懸けるたすくなのでした。（ただオタクなだけという見方ももちろんありますけどね）

中には、書いてしまつと内容ちゃんばれつてサブタイで躊躇することもありますが、完結して改めてそれを見ると、それだけで物語の流れが見えて、なかなか感無量でもあります。

で、私が選ぶベストサブタイトルトップ3……なんだろう？

オトウサマ（Future）

融け出した万年雪（my precious）

山笑う（再び桜花笑う季）ですかね。

一人称はキャラなりきりの証し!?

私の作品……ほとんどが一人称で書かれています。

で、「切り取られた青空」では女性一人称に（ブログで日記を付けるがごとくスタート）したがために、相手方の亮平の気持ちやその後の事情が一切書けず、結局「切り取られた青空 - いと - 」を書くはめに。

大人の男の一人称なんて書けるのか？ と当時は不安でしたけど、書いてみるとコレが結構楽しかった。

今ではたぶん、男性主人公の方が数は上回っていると思います（正確に数えないのがたすくらしいですけど）

それもこれも私のなりきりのなせる業。「いと」の結婚部分ではテンションをあげまくり、「遠い旋律」「指輪の記憶」「my precious」ではキャラに引きずられて体調不良を起こす。

なんだかなあと思って三人称に挑戦するも、「満月に焦がれて」はそうでもないですが、「Parallel」は三人称の顔はしているけど、どう考えてもあれは一人称。私には三人称はムリなのかもしれないなんて昨今は開き直ってるかもしれませんが。「再び桜花笑う季」以降も一人称が圧倒的に多いです。

「オラトリオ」シリーズに至っては、ついに話によって語り部が違ふという荒技に出てしまいました。

（でもコレ、ネットでは結構使われている技法ですよ）

私が一人称にこだわるのは相手方を謎にしたいからです。知ってて

思わせぶりに伏線を張る技量がないもんですから、私は主人公と一緒に首をかしげて、一緒にネタばれの際ビツクリしまくる訳です。

ただ、死にキャラをメインで書くとそいつに『呼ばれてしまう』らしく、本当に体調を崩します。それを見かねたりア友ちゃんの一言で「ハムケ」オジツ　ハムケ　イツソ」が生まれたりもしましたが。

来年マジで50歳になるので、あまり無茶をするのは止めようと一応思ったりしていますし、年なんでしょうかね、昔みたく根詰められなくなりました。（なんだか寂しい話になってきたなあ）

今後もよほど何かの縛りがない限り、たすくは一人称で書き続けると思われます。

自己満足のためには、努力は惜しみません

小説が完結したとき、私はずるざるやること……それは印刷です。

私にとって、自分の作品を製本してやっとその作品が完成した事になるんです。

なんせ私は現在49歳、堂々たるアラフィフなのです。パソコンに明るいわけではありませんが、自分が必要な機能だけは何とか使いこなして小説を更新しています。

ただ……一番見せたい昔の物書き仲間ってば軒並みそういうのに弱くて、半分はパソコンすら持っておりません。そんなリア友たちに今の私の勇士？ を見てもらうには、頑張って印刷するっきゃないんですよ。

でも、私ってオタですから。コピーをそのまま渡すなんて失礼なことできません。きちんと製本する。そのために製本用の横ステープラー（しかし、ちょっと日和って30枚タイプ）まで買い込みました。

ここでの挿絵表示法がわからず、貼ってませんが表紙にも拘ってません。

まだ全部表示してないんですが、サイトの各作品のトップページに掲示していくつもりです。

次は、製本の仕方です。

「私の本」はA5サイズ。あまり字が小さいと、近眼ですから老眼鏡は必要ありませんが、眼鏡を外して読まなければならぬし、A4を半分にすれば良い訳ですから、カットの必要がない。素人がカットした紙は揃ってなくて、紙詰まりの原因になりますから。

最初は、ブログとかポータルの配信画面を印刷していました。

そして、それを自作の白紙の本ベースに貼り付けるという方法。それだとページ繰りを考えなくていいんですよ。

でも、この方法では、かなり良いノリを使っても暖房などを使用すると貼ったはずの紙がはがれてくる。

なので、それを崩さないように両面コピーした時期もありました。ワードに製本用の印刷機能もありますが、文字ポイントを下げても文字の隙間が大きいんじゃないでしょうか。紙数が嵩むんです。

嵩むと（最初に使用していたのが10枚タイプだったのもあり）止まらないんです。

以後、30枚までOKのステープラーを買い込んだこと、某ポータルがスマホに対応してセンタリング方式になったこと、サイト化して原稿幅が変わったことなどいろいろあって、今のワード落としとなりました。

そうしてできた本ベースに、ラベルソフトから表紙になるテンプレートを探して印刷します。普通のコピー用紙に印刷して、ラミネーターでパウチします。

このためにラミネーターも、わざわざ買いました。

実は、怒られると思っていたこの買い物、一番喜んだのは夫でした。夫も仕事柄必要で、私が買わなくても早晚買うつもりだったらしいと聞いて、正直脱力しました。

後日、私の仕事にもこのラミネーターは大活躍。無駄な買い物ではなかったと思っています。

これを90度反転させることができるステープラーで止めて出来上がります。

苦労してつくったそれは、それに値する出来映え。なので、周りの方がどんなに呆れようとも「世界で一冊の私家版」作り、たぶんこれからも止められないでしょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9245x/>

神山 備の取扱説明書

2011年10月28日09時07分発行